

父親支援ツールとしての絵本の在り方に関する研究

小崎 恭弘

【目的】 父親の育児支援における絵本プログラムの効果的な展開とその意義を明らかにするために、父親支援であり取り上げられていなかった、絵本プログラムを中心とした企画と実施を行った。またこれらの実施の内容や活動の振り返り、調査データに基づき、父親支援における絵本プログラムの構築を行い、広く社会で活用可能なプログラムの開発を行う。

【調査内容】 調査は2010年度6月～12月の間に兵庫県・大阪府の子育て支援関連施設で「父親の絵本プログラム」を実施し、そこに参加した父親たちにアンケートと座談会の中でグループフォーカスインタビュー（GFI）を行った。実施状況は表1に示す。

表1. 父親の絵本プログラム実施状況

日時	実施場所	プログラム名	父親の数	実施形態
6月	宝塚市高司児童館	パパたん遊ぼう	32名	アンケート
7月	東加古川子育てプラザ	夜パパスペシャル	17名	GFI
8月	摂津市男女共同参画センター	パパの子育て応援	8名	アンケート
9月	箕面市地域振興センター	パパの絵本大作戦	5名	GFI
12月	横浜市 とことこ	パパと子どもが仲良くなる方法	34名	アンケート

【考察】

1. 絵本プログラムの意義について

これまであまり子育てにかかわっていない父親たちが、こどもとのかかわりについて大きな不安を抱えていることがわかった。その改善のために、身近なコミュニケーションツールとして、絵本を活用することが可能であるということがプログラムを通じて伝えていくことができた。また父親が主人公の絵本をいくつか紹介する中で、共感やモデルとして父親像をイメージしていき、自らのこども観や父親観について、より積極的な意識を持つこともできた。父親支援プログラムとしての絵本を使用する意義が見られた。

2. 絵本プログラムの構築

父親支援プログラムが社会的にまだまだ認知されていない中において、絵本を活用したプログラムの構築は社会的に意義深い。プログラムの展開としては、1.導入 2.絵本の世界を楽しむポイント 3.絵本を活用した子どもとの関わり 4.パパにお勧めの絵本 5.絵本の中のパパ立ち 6.こどものそだちとパパの役割について。という展開のプログラムの完成を見た。これらを活用し、兵庫県の父親支援プログラム開発を行った。